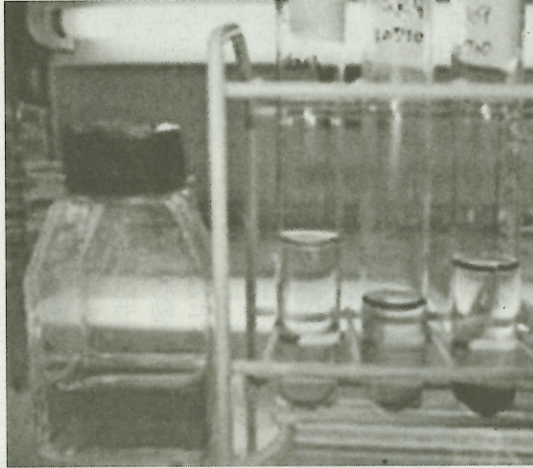


微細藻類「nak9」

放射性物質を高度に吸収 白岩教授らが発見

福島第一原発事故でも飛散した放射性物質、セシウムを高度に吸収する能力を持つ微細藻類「nak9」を白岩善博教授（生環系）、井上勲教授（同）らの研究グループが発見した。福島第一原発での実証研究の許可が下りず実用化のめどは立っていないが、培養しやすい微細藻類を除染に用いることで、コスト削減が見込めるという。



「nak9」の培養風景

同研究グループは、原発事故で飛散した放射性物質の中でも特に人体に取り込まれやすいセシウム、ストロンチウム、ヨウ素を除去する能力について、微細藻類や水生植物188株を調査。研究の結果、セシウム、ストロンチウム、ヨウ素を高度に吸収する株がそれぞれ5株、3株、8株発見された。中でもnak9と呼ばれる藻類は2日以内で培

養液中のセシウムを90%以上除去・吸収する能力があることが分かった。nak9は約10年前、接着剤の中に緑色の小生物が混入しているのに気づいた井上教授が培養し続けていたもので「セシウム等を吸収する能力があるとは全く予測していなかった」（白岩教授）という。白岩教授は「震災で被災した人も研究に携わり、研

究員それぞれが被災地の早期復興のために研究してきた。実証研究がいつ許可されるか分からないが、nak9を培養し続けたい」と話している。

この研究は2011年の夏に農林水産省の支援を受ける。

けて始動し、12年からは筑波大学震災復興支援プロジェクトに採択されている。（新田萌夏）